

## 医学部 医学科 カリキュラム・ポリシー

### 1. 幅広い教養と豊かな感性を備え、高い倫理観を持つ人間性を培う

- (1) 自然科学系および人文科学系を含む教養科目に加えて、初年次科目として行動科学、情報処理、課題探求実践セミナーなどの科目を開講します。(D1、D2)
- (2) 初年次から、学内および学外の医療施設での早期医療体験実習を取り入れて、医療スタッフから直接、指導や評価を受けます。(D4)
- (3) 初年次から継続的にプロフェッショナルリズム教育を含む医療倫理教育を実施し、生命倫理、医療倫理の学修により高い倫理観を養います。(D1、D4)

### 2. 基礎医学、臨床医学、社会医学および疾病予防に関する専門的知識を幅広く身につけ、自ら探究すべき課題を提起し、解決する能力を養う。

- (1) 6年一貫教育により低学年から専門教育を導入し、各専門分野の基本的知識の定着と応用力の醸成のため、問題解決型授業の導入により自ら探求すべき課題を提起して問題解決に取り組む能力を身につけます。(D1 から D5 まで全て)
- (2) 問題解決型授業において、疾患の病態生理から治療に至るまでの幅広い内容を学修することにより、基礎医学、臨床医学および社会医学の知識の横断的および縦断的統合力を養い、科学的根拠に基づく、分析的、批判的思考力を身につけます。(D1、D2、D3)
- (3) 6年間を通してチーム基盤型学修(TBL: Team-Based Learning) および、問題基盤型学修(PBL: Problem-Based Learning) といった問題解決型の能動的学修法を積極的に採用します。特に高学年では多数の臨床症例に関する臨床推論にチームで取り組み、実践的な問題解決能力を養います。(D1、D2、D3、D5)
- (4) 能動的学修を通じて、自分の考えを論理的、明確に表現すること、また診療に関わる内容を適切に表現する能力を養います。(D2、D3、D5)
- (5) 専門課程において、各専門分野の講義で基本的な医学専門用語を学修すると共に、医学英語教育の講義を通して、必要な医学英語を身につけます。(D1、D3)

### 3. 研究マインドを養う

- (1) 医学研究に関しては先端医療学コースやリサーチコースを開講し、医学専門教育を担当する部署で低学年から研究指導を受け、実践的な学修を通じて研究マインドを養います。(D2、D3、D5)

### 4. 情報の適切な収集、処理、管理を学修する

- (1) 低学年から情報技術(ICT: Information and Communication Technology)を利用した、情報収集、情報処理、医療統計などの教育を継続的に行います。また、患者の個人情報の保護およびその適切な管理を学修します。(D3)

## 5. 医療の実践力を養う

- (1) 初年次からの継続的な医療安全教育により、安心・安全な医療への関心を高めます。(D4)
- (2) 低学年からの継続的な医療コミュニケーション教育および、臨床実習前の基本的診療技能の学修を通して診療参加型臨床実習に向けての実践力を養います。(D3)
- (3) 診療参加型臨床実習では、各専門分野の課題に取り組み、幅広い臨床推論能力を養うと共に、臨床現場での実習を通して基本的診療技能および医療コミュニケーション能力を更に高めます。また、医療チームの一員としての役割を認識し、多職種と協働できるための姿勢を身につけます。(D3、D4、D5)

## 6. 医師の社会的使命を理解し地域医療に貢献する意欲を醸成する

- (1) 初年次の地域医療機関での早期医療体験実習に始まり、地域医療関連授業や、診療参加型臨床実習を通じて、地域医療への関心を育みます。(D4、D5)

## 7. 学生評価

- (1) 総括的評価：学年末における科目毎の単位認定や GPA (Grade Point Average) および、参加型臨床実習前に行われる全国共通の医療系大学間共用試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination)、CBT (Computer-Based Testing) 等の指標に基づいて総括評価を行います。(D1 から D5 まで全て)
- (2) 形成的評価：必要に応じて、個人面談や臨床実習現場での形成的評価を行い、細やかな指導につとめます。(D1 から D5 まで全て)

## 8. 教育評価

- (1) 学生の成績評価に加えて、授業評価、同僚評価、外部評価などの多面的評価法を用いてカリキュラム自体を評価し、その結果をもとに一定期間を定めてカリキュラム(教育内容・指導方法)の改善を行います。

\*D1~D5 については別途定めるディプロマ・ポリシーの以下に対応する。

### D1 (知識・理解)

- ・医学に関する幅広い専門知識を身につけている。
- ・医療人の基盤となる高い教養を身につけている。

### D2 (思考・判断)

- ・異なる分野の医学知識を横断的に活用することができる。
- ・自ら探求すべき課題を見つけ、問題解決に取り組むことができる。

### D3 (技能・表現)

基本的診療能力(コミュニケーション、診察、処置)を身につけ、医療チームの一員としての役割を意識した行動ができる。

### D4 (関心・意欲・態度)

- ・安心・安全な医療に関心を持ち、実践することができる。

- ・ 医師の社会的使命を遂行し地域医療に貢献する意欲を持っている。
- ・ 人間性豊かで倫理感と責任感に富む人格を身につけている。
- ・ 社会人としての常識と感性を身につけている。

**D5 (統合・働きかけ)**

- ・ 異なる分野にまたがる知識を統合し、基礎医学、臨床医学および社会医学の研究や課題解決に取り組む姿勢を身につけている

## 医学部 看護学科 カリキュラム・ポリシー

看護学科のカリキュラムは、看護の基盤となる教養や基礎知識を修得し、看護実践能力を身につけるための看護基盤系科目、看護関連の専門知識・技術を修得するための基礎看護系科目・臨床看護系科目・地域看護系科目・統合看護系科目、国際的な視野と知識を修得するための国際活動系科目および教諭資格を取得するための教職系科目の 7 つの科目群で構成されています。

### 【教育内容】

1. 看護基盤系科目群は、豊かな人間性と倫理感性を育み、根拠に基づいて問題解決に向けて取り組むことができるように、全学の共通教育科目である初年次科目と教養科目で構成されています。
2. 看護の専門教育科目である基礎看護系科目群では、看護の原理となる知識や生活支援に必要な基礎的な技術を 1 年次から学ぶと共に、学年進行にともない医療における安全や効果的な教育・管理などについて学ぶ科目を配置しています。
3. 臨床看護系科目群では、生命の誕生から死に至るライフサイクルに応じて必要な看護の知識と技術を学ぶ科目で構成し、母子看護学、成人看護学、精神看護学の科目を配置しています。
4. 地域看護系科目群では、地域で生活する人々の健康の保持増進に向けて必要な看護の知識と技術を学ぶ科目で構成し、高齢者看護学、在宅看護論、公衆衛生看護学などの科目を配置しています。  
また、この群には、保健師育成コース選択の学生向けに、保健師国家試験受験資格の取得に必要な科目を配置しています。
5. 統合看護系科目群では、3 年次までの学びを統合し高度な専門性をもってチームの一員として役割発揮ができるように、4 年次に統合看護分野の科目を配置しています。特に看護師実践力育成コースでは、臨床の場や地域で求められる高度な実践力としてクリティカル看護や地域で生活する人々を支える看護者を育成するための科目を配置しています。また、看護研究に取り組める基礎を修得できるように、3・4 年次に看護研究、卒業研究を配置する他、災害看護や英語文献にふれる授業科目を配置しています。
6. 国際活動系科目群では、国際的な看護活動ができるように、外国語や国際活動に関する科目を配置しています。
7. 教職系科目群は、主に養護教諭・高校看護教諭育成コースの科目群であり、養護教諭・高校看護教諭の免許状取得に必要な科目を配置しています。

### 【教育方法】

1. 主体的に学ぶ力と協働力を高めるために、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施します。
2. 4 年間を通して看護専門職としての基礎的能力の育成を重視した教育方法を展開します。1 年次より、グループで協力して課題に取り組む機会を多く持ち、附属病院

外来や病棟で患者に接する授業や看護の基礎技術を学ぶ講義・演習を実施します。2年次、3年次では看護の専門知識・技術を演習し、さらに臨地の看護実習によって実践能力を身につけます。4年生で統合的な学修として、看護研究の中で課題探究に取り組み、統合看護実習では、看護マネジメントの実際を理解し、チームの一員として、対象者の健康上の問題解決・課題達成に向け、既習の技術・知識を統合しながら実践する力を身につけます。

3. 学生個々のニーズに合わせて、看護実践能力を育成するための科目、保健師になるための科目、養護教諭・高等学校看護教諭になるための科目がコース選択でき、自らキャリア形成する力を養います。
4. 臨地実習は、小グループ編成で展開し、チーム内の協働・連携の重要性を実践的に理解できるように進めます。個別目標の設定等自主的な取り組みを行い、指導教員および臨地指導者から、ケア場面で助言を受けながら学修を深めます。

#### **【教育評価】**

1. 学年末における科目ごとの単位認定や GPA に基づいて総括評価を行います。必要に応じて、ディプロマ・ポリシーの到達度に基づき、事前学習や事前テストの診断的評価やカンファレンスや臨地実習場での形成的評価を行います。
2. 上記および学生のセルフアセスメント、授業アンケートおよび学生の面接等に基づいて、カリキュラムを評価します。